なな山だより 47 号

2019 年 10 月 13 日　なな山緑地の会発行

安全講習会

宮﨑　裕

なな山緑地の安全管理担当者の役目を前任者から引き継いでから 2～3 年経つだろうか。 初めの頃は森木会の講座で教わった方法と実際の現場では違う所もあるが、基本を身に付けた人が、その上でその人なりにアレンジしている、と余り不思議にも思いませんでした。

しかし、エンジン動力付きの機械を使用する上での事故の報告が多くなるにつれ、たくさんの刈払機やチェンソーを使ってボランティア活動をするなな山も、例外なく危険と隣合せている事を意識せざるを得なくなりました。

なな山では 8/11 の活動日に、講師として多摩グリーンボランティア森木会の川添会長に来ていただき、刈払機の操作者への合図の方法、チェンソーによる伐木作業の労働安全衛生規則（以下「安衛則」と言う）が改訂された背景や改正点を中心に安全講習会を行なわれました。

刈払機：

刈払機を使用しての草刈り活動中には、刈払機の操作者へ安全に、緊急に、確実に、エンジンストップなどの要件を伝える必要があります。森木会で昨年の 11 月に、どの様な方法が一番刈払機操作者へ伝わり易いか試行実験を行った報告が有りました。

離隔距離 5m（危険区域）から、笛による合図、棒切れ等を投げての合図、竹などの棒先に布きれ等を付けての合図等の紹介が有りました。実際の現場ではケースバイケースで使い分けるのが現実的と感じました。

- 刈払機操作者は、ヘルメット、防護面、イヤーマフ等を装着しているので、視野が狭かったり、音が聞こえ辛かったりするので、活動者間で最も安全で確実に伝わる合図方法を確認する。
- 刈払機操作者は、合図を確認したら、動かず、その場で、刈払機のエンジンを止める。
- 1 人が行う刈払機の連続作業時間は、おおむね 30 分以内とし、5 分以上の休憩時間を取る。
- 刈払機などの動力機械を使う作業は、1 人では行わない様に、世話役（安全管理者）を配置。

チェンソー：

伐木作業における災害による死亡者数が年間 40 人前後で推移し7年間改善が見られないとの事です。死亡災害の約 6 割はチェンソー伐木作業時に発生しています。休業4日以上の死傷者の起因物では、立木（りゅうぼく）などが約 3 割、チェンソーが約 2 割と多数を占めています。伐木作業における災害を防止するために、安衛則が一部改訂され、安全対策が強化されました。

(1) 受け口を作るべき立木の対象を胸高直径 40cm 以上から 20cm 以上に拡大する。

(2) 掛かり木の速やかな処理を義務付けるとともに、処理における禁止事項を規定する。
（禁止事項：かかられている立木の伐倒、かかり木に激突させるためにかかり木以外の立木の伐倒。 かかっている木の元玉切りは、今回の改正で禁止されるものではありませんが、かかり木の安全な処理法とは言えない事に留意して下さい）

(3) 立木の高さの 2 倍に相当する距離を半径とする円形の内側には、当該立木の伐倒の作業に関わる以外の人を立ち入らせてはならない。

(4) チェンソーによる伐木作業を行う人の下肢の切創防止用保護衣やチャップスの着用を義務付ける。（なな山では大きいサイズのチャップスは 2 着有りますが、体の小さい人には大き過ぎるので、小さいサイズを追加購入する予定）

当日の安全講習会の日は参加者が少なかったのが残念ですが、安全作業を周知するため、講習会の資料をラミネート加工し、何時でも見られる様に C 倉庫に吊り下げて有ります。又、機会ある毎に、朝礼などの場を借りて安全を訴えて行きたいと思います。

ガーデンシティーこども祭り

日にち：５月３日（金祝）・４日（土）・５日（日祝）　場所：多摩センター

毎年「多摩の自然とまちづくりの会」の参加活動になな山緑地の会のメンバーもお手伝いとして協力しています。「ぶんぶんゴマ」「ペンダント」「ぬり絵鯉のぼり」のコーナーには 3 日間で、250 人＋保護者とたくさんの子供たちが参加しました。今年も会場には素敵な笑顔と素晴らしい作品があふれていました。

鯉のぼりに色を塗る子供たち

なな山緑地における帝京大学関連講座

１．　帝京大学大学院教職研究科（教職大学院）三石教授･大森教授　なな山緑地教室

2019.5.21（火）大森教授、三石教授、学生・女子２名　合計４人

大雨注意報が出ている中、傘をさしてでも行いたいと大森教授。雨の緑地も教育的価値ありとの三石教授。12:30 来場。三石教授と相田は長靴・合羽で傘をさして外部に、３人は倉庫の中で緑地講座の開講である。

・　なな山緑地の活動経緯と現状を説明する。
・　こども教育の見地から、子供対象の活動に話題を絞る。

ESD・総合的学習に関連して緑地教室など自然環境に関わることが効果的であること。ここでは、第二小学校での「なな山で遊ぼう」、南鶴牧小の「動植物の観察」、保育園の緑地散策、明星学苑高校の里山ボランティア体験などに言及する。1 時 30 分を過ぎた頃、雨が小降りになり、やがて雨が上がった。危険の無い範囲で緑地散策に入る。三様に特色のある状況を見てもらう。中の谷は、中央は川の流れの状況になっており、そこかしこから、かなりの水量の湧水が確認された。５ｃｍものの高さに吹き上がる湧水の様子は 15 年に及ぶ私の活動経験の中でも初めて体験する緑地の姿だ。雨の緑地の観察の大切さを学ばせていただいた格好になった。　相田　記

２．　帝京大学教育学部「人文社会科教養科目」甲野講師里山講座多摩の里山と人の営み

里山探検１　2019.5.31（金）

なな山に集合した生徒さんたちに会員の相田さんより、この山は昔、どのように利用されていたのか、なぜ我々が活動をしているのか、現在はどんな活動をしているのか等々説明を受け、その後は甲野講師や相田さんが各場所を説明しながら、観察ポイントを見たりやクイズに答えたりしながらなな山をぐるりと探検。西の山、東の山、中の谷を皆さんグループに分かれてそれぞれのポイントで説明を聞いたり、観察したりしました。皆さん熱心に山を観察していました。　飯田　記

なな山の説明を受ける

ポイントで観察しながらクイズに回答

西の山で説明を聞く

里山探検２　2019.6.7（金）

シノダケの説明をする相田さん

帝京大学教育学部の授業として、先週 5 月 31 日の「なな山緑地の現地探索」に続いて、7 日には座学が行われました。講義の主旨は、里山の自然を体験すること、現在の活動の中でどのような取り組みがされているか、ということで、今回は、アズマネザサ（シノダケ）を使ったヒンメリづくりを体験してもらうこととなりました。会場は、当日の雨により帝京大学の講義室で行われました。
最初、甲野先生より、前回の復習と今日の流れの説明がありました。
その後、相田さんから、なな山緑地でのシノダケとの関わりや取り組みを紹介しました。シノダケが多摩の暮らしの中でどのようなものであったか、それを活用した「めかい」の話などが説明されました。
工作実習では、シノダケ・ヒンメリづくりでは定番となっている「正八面体」づくりを指導しました。
苦戦する学生もいましたが、みなさん楽しく完成にたどり着きました。
最後に、なな山緑地のブログを使って、シノダケ・ヒンメリでどのような作品を作っているのかを紹介しました。ちなみにこの講座は今回で 6 回目とのことです。今後教育などに関わる若い学生に引き続き、なな山とシノダケ・ヒンメリの魅力を伝えることが出来ればと思いました。　　中山　記

里山探検感想文（抜粋）

・U さん　前回の観察で豊かな自然環境を維持するために人の力が重要であることを知った。また、今回の実習で里山に自生する笹や竹が今回作ったヒンメリに生まれ変わることを知り、里山の豊かな自然が我々人間に多面的に多くのものをもたらすことに気付いた。光合成で酸素をもたらし、安心感をもたらし、また、我々の生活の一部となることもできるので、その重要性を強く感じた。

・ M さん　昔は人と自然は密接に関わっていたが、今は技術の発達で関わりどころか自然そのものが減ってきてしまったと気付いた。だが、この関わりはなくしてはならないものだと思った。私は都会育ちだし、体力もないので山の散策は大変だったが、ヒンメリ作りのような工作から、自然に関わることもできるのだと知った。これから、ぜひこう云うものからも自然と関わっていきたい。

ヒンメリ作りに挑戦する生徒さん

・ E さん　東京には自然は少ないと思っていたが、こんなに目の前あると知り身の回りにある自然に気付かないのは視野が狭いなと感じた。これは大切にしなければいけないと思った。竹でこんなに遊べる楽しい活動ができて良かった。資源を有効に活用することは環境にも良いと思った。

・ A さん　昔から人々は自然環境と共存してきたということが今回のヒンメリ作りを通して理解できた。生活必需品ある薪などとしての利用だけでなく、装飾品のような生活を豊かにするものへの利用とは今まで自分の考えになかったものだったので、人と里山の新たな関係に気づくことができた。

・ SA さん　自然に手を加えすぎでも良くないし、何もしなくても無秩序に生い茂るだけなので丁度いいバランスを探して、人間と自然は昔から共生しているということを実感できた。大学の近くにこんな自然があるのに全く気にせず生活していたので、これからは自然を意識していこうと思った。

めかいの説明をする相田さん

・ SI さん　普段気にしてなかった森も、ちょっとした木の知識や視点の変化でとても面白いものになった。実家が森で囲まれているのに、今まであまり意識してこなかったことがちょっと悔しいくらい。
この素晴らしい自然を有効に活用し守っていくためにも、自分にもできることがあるんじゃないかと感じた。いつもなな山緑地でそうした活動をしている方達までは行かなくても、身近なことから、変えていきたいと思った。

・M さん　自然を守るだけでなく生かそうとする活動を知りスゴイと思った。特にヒンメリの作品を通して自然に親しみを感じさせることが良いと思った。私たちが知ったように自然の素晴らしさを多くに人に知ってもらい、皆で自然について考えていけるような環境づくりが大切だと思った。

深めよう会員の絆　リレー随筆

私と出会いとなな山緑地　　天野　和子

グリーンボランティア初級講座 17 期を卒業し、新しくメンバーになりました、生まれは、九州・佐賀の天野和子と申します。宜しくお願いします。

なな山緑地のメンバーになりたいと思ったきっかけは、平成 29 年 6 月の広島市安佐北区可部で行われた、まちづくりシンポジウム第 35 回逆手塾 in 可部に初めてひとりで参加し、事務局の方が、人見知りの私に、何事も人生チャレンジだよと教えてくれ、同じ多摩から来た人がいるから、話してみたらと紹介してくれた方がなな山緑地会員のＮ山氏でした。住んでいるのは多摩なんだけど、多摩の事を全くと言っていいほど知らなく、定年を迎える前に、自分の住んでいる地域を知り、楽しいことをやっていきたい・・（遅い地域デビューかなぁ～）というような話をしたときに、「なな山にめかいクラブがあって、みんな楽しくおしゃべりしながら活動しているよ」と教えてもらったことでした。

グリーンライブセンターのめかいの講習に参加し、材料のシノダケを採取するのに、入った山が“なな山緑地”。四季折々の動植物、畑の野菜等、こんな素敵な自然が近くにあるなんて、目からうろこでした。グリーンボランティア初級講座に参加し、やっと　待望のなな山緑地の会員になることができました。今は中級講座の受講中です。

10 月で定年退職なので、それ以降は平日の活動にも参加させてもらいたいと思っています。なな山の美味しい空気を吸って、楽しく笑って、気持ちのいい汗をかき、畑の美味しい賜物を食し、なな山の保全活動に参加したいと思います。

私の第二の人生の始まりです。地域でねばって、今後も人の役に立つことをやりながら、ちゃっかり自分も楽しみ、健康でありたいものです。皆様に感謝です。

な　な　山　植　物　誌

キバナアキギリ　黄花秋桐　シソ科

8 月末になると夏の花はすでに終わり、一時静かな緑の林床になります。そんな時に西の谷中ほどでキバナアキギリの黄色い花が咲き始めます。あまり目立ちませんが、日本の固有種です。葉は鉾型なのが特徴で、4 本のオシベのうち 2 本は退化して小さく花の奥の方にあります。退化した 2 本の葯は不完全で、先端がくっつき紫がかって目立ちます。完全なオシベは勢いよく伸び、黄色い葯が飛び出します（写真では見えません）。虫は目立つ不完全なオシベに向かって花の中へ入り葯を押すと、その重みで完全なオシベの葯がシーソーのように下りてきて、虫の背中に花粉をくっつけるという仕組みになっています。退化といっていますが進化かも知れませんね。まだ花が残っていたら、のぞいてみて下さい。（中原）

花の奥に退化した葯がふたつ並んだ点のように見えます。花の外に出ている紫の線はメシベ。

ちょこっと安全確認

なな山周辺にある AED の場所を再確認

1、百草団地交番（24 時間対応可能）
2、お風呂の王様（年中無休 9 時～1 時）
3、老人ホームあすなろ（24 時間対応可能）
4、三方の森ふれんど（休館日：第 2.4 月曜・イベントのない日・祝日）

※交番が無人の場合は設置してある電話で連絡してから持ち出して下さい。

なな山日記（活動・観察記録）

No. 364　2019年　5月12日（日）　晴れ　気温　22℃
参加者　21人
東の山倒木の処理により、アズマネザサの林の中に新しい遊歩道が出来た。

● 作業/飛び地の草刈り、東の山倒木の処理、中の山ヒサカキの間伐、倉庫の整理・棚卸、ダイコンの間引き等。
● 観察/アマドコロ、カザグルマ。

No. 365　2019年　5月26日（日）　晴れ　気温　22℃
参加者　20　人
サイハイランが丁度満開で参加者たちを和ませた。

● 作業/歩道沿いとのり面の草刈り、刈草を畑の畝間に敷く、希少植物の調査と保護、丸太の運搬等。
● 観察/サイハイラン、スイカズラ、ヤマザクラの実。

No. 366　2019年　6月16日（日）　晴れ　気温　27℃
参加者　15人
先週は雨で中止になった為、本日が振替活動日となる。

● 作業/ダイコンの収穫と仕分け、カボチャの蔓が伸びるのり面の草刈り、歩道沿いの草刈り・刈草の運搬等。
● 観察/ムラサキシキブ、イチヤクソウ、ヤブレガサ。

No. 367　2019年　6月23日（日）　曇り　気温　24℃
参加者　17人
4 月に設置した蜂トラップを回収したらオオスズメバチ 13 匹がかかっていた。

● 作業/歩道沿いの草刈り、刈草の運搬、ダイコン・ニラの収穫、ホダ木立ての製作・ホダ木の本伏せ等。
● 観察/ヒメヒオウギスイセン、トウネズミモチ。

No. 368　2019年　7月21日（日）　曇り　気温　28℃
参加者　14人
本日も先週の振替活動日となった。電動機械用の防具、チャップスの S サイズを追加購入した。

● 作業/広場・西の谷奥ののり面・遊歩道の周りの草刈り。カボチャの収穫、のり面用梯子の制作。
● 観察/オオバギボウシ、ヤマユリ。

No. 369　2019年　8月　4日（日）　晴れ　気温　34℃
参加者　11人
本日は高温の為、午前中のみの活動とした。保管している OS-1 を新旧交換した。

● 作業/のり面のクズの蔓を除去、のり面の刈払い・刈草集め、カボチャ、ニラの収穫等。
● 観察/ヒヨドリバナ、ホオズキ。

No. 370　2019年　8月11日（日）　曇り　気温　32℃
参加者　12人
安全講習会では「労働安全衛生規則改正のポイント」を解説していただいた。

● 作業/安全講習会、のり面の刈草運搬と草刈り、入口回りの手刈り、スイカの収穫と試食等。
● 観察/スイフヨウ、ヤブミョウガ。

No. 371　2019年　8月25日（日）曇後晴　気温　29℃
参加者　17人
猛暑が落ち着いてきた感じで午後も活動が続いた。西の山と中の山の遊歩道草刈りをした。

● 作業/のり面の草刈り・刈草下しと運搬、ｽｲｶとｶﾎﾞﾁｬの収穫、ﾊﾁﾄﾗｯﾌﾟの製作と設置、倒木の処理等。
● 観察/サジガンクビソウ、ヌスビトハギ。

イベント・活動予告

10 月 5 日（土）　三方の森ふれんどまつり
11 月 4 日（月祝）　多摩のめかいづくり講座（ｸﾞﾘｰﾝﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ連絡会主催
11 月 23 日（土）　森木会、総会・合同研修会

なな山だより　第47号　2019年　10月　13日発行
発　　行　なな山緑地の会
発行責任者　髙木直樹
住　　所　多摩市和田 1394-13
ホームページ　https://nanayamaryokuti.jimdofree.com/
編集委員　鎌田文雄　飯田歩